International Immunology 投稿規程

本投稿規程は https://academic.oup.com/intimm/pages/Instructions_To_Authors が原本となる。本和訳と原本との間に差異があった場合には、英語版が優先される。

掲載論文の区分

各号の大部分は **original research paper**（原著論文）が占める。**Original research paper** は、特に免疫系の生物学的な機能について、新しく有意な知見を示すものである。

臨床研究においては、免疫系の疾病や医学的なヒト免疫応答の制御方法について新規性のある考察がなされている場合に掲載する可能性がある。Case reports（症例報告）は受け付けていない。

Short communications（短報）も掲載対象である。Short communications は、公表されることによって研究分野の更なる進歩を促進するような、簡潔だがインパクトのある発見に適しており、図は 4 点まで、そして Results（結果）と Discussions（考察）を一つのセクションにまとめたものと定められている。

本誌ではその他に **Letters to the Editor-in-Chief / Author's Replies**（レター）も掲載している。Letters は、本誌で最近公表された論文について議論したものである。最大語数は 450 語、参考文献は議論対象の論文を含め 5 件までに制限されており、図は必要であれば補足データとして含めることができる。採択された Letters は議論対象の論文の著者にも送られ、その著者は Letters に対して Reply を掲載することができる。Letters を掲載する場合、まず編集長へメールにて連絡すること。

議論の活性化のため、本誌では特定の視点からの意見などを示した **Forum**（フォーラム）を掲載することがある。Forum を掲載する場合、まず編集長へメールにて連絡すること。

査読プロセス

本誌は免疫学研究のコミュニティ全体を代表するジャーナルである。多数の Associate Editors (AE)により、査読は迅速かつ公正に行われている。すべての論文は最低 2 名の査読者（AE または Referee）に査読され、そのうち最低 1 名は著者の所属機関以外の者とする。リバイスの必要がある場合は、AE の一人が直接著者にその旨を連絡する。

AE の査読の後、編集長または編集委員が最終的に論文を掲載するか否かの判断を行い、著者に審査結果を通知する。

論文投稿

本誌はオンラインの投稿・査読システムを使用している。詳細については Submitting your manuscript online を参照。著者は常に投稿原稿のコピーを保管しておくこと。

論文は英語で書かれているものとし、AE 1 名が担当する。

投稿準備

原稿の本文および表をテキストエディタで作成し.doc, .rtf, .ps のいずれかの形式で保存しておくこと（.pdf, .jpg は不可）。図に関してはより多くの形式に対応している（下記参照）。

表題頁には、以下を記載すること。
論文の表題（正確かつ簡潔に論文の内容を表し、専門家以外にも理解できるよう専門用語や特殊な略称等の使用を避けたもの）、全共著者の氏名、校正原稿の送付先となる **corresponding author** の氏名、住所、メールアドレス、電話番号、50 字以内の欄外表題（running title）、文献検索用に表題に含まれないキーワード最大 5 つ。投稿原稿の総頁数や図表総数も本頁に記載すること。

Original research papers は本文の前に表示される Abstract（要旨）から始めること。Abstract は文章で一段落に研究の材料、手法、結果、主な結論を **250 語以内で**簡潔にまとめる。要旨で文献を引用する場合には、著者名、雑誌名、巻数、開始頁数、出版年を記載すること。略語の使用はできる限り避けるのが望ましい。

本文は短い Introduction から始め、単なる Abstract の繰り返しにならないよう研究内容の歴史的または必要な背景を概説する。続いて研究の方法を示した Methods、結果をまとめた Results の順に記述する。Results では先行文献や可能な解釈の提示は最小限にとどめ、Discussion で記述する。最後の考察と結論を示す Discussion は結果の要約から始めてもよいが、Results セクションの内容と重複しないよう注意すること。

使用した試薬や器具があれば、メーカー名とその所在地（市まで）を記載すること。

論文中で略称を用いた場合、一覧をアルファベット順で別頁に記載すること。一般に使用してよい略称の一覧はこちら。

Funding（資金調達）について。すべての資金源の詳細は、「Funding」セクションを設けて明記する。本文中の位置は「Acknowledgements」セクションの前とする。

以下の規則に従うこと：
‘This work was supported by …’で始めること。

機関名は略名ではなく、正式名称で記載すること（例：‘The National Center Institute at the National Institutes of Health’，または単に‘National Institutes of Health’と書き、‘NCI’や‘NCI at NIH’とは書かない）。
助成金番号は次のように略さず正確に括弧内に記載すること：‘[grant number ABX CDXXXXXX]’。

複数の助成金番号がある場合は、次のようにカンマで分けて記載すること：‘[grant numbers ABX CDXXXXXX, EFX GHXXXXXX]’。
機関が複数ある場合はセミコロンで区切り、最後の資金調達機関の前に'and'と記載すること。
特定の資金源に対して個人を指定する必要がある場合、関連機関または助成金番号の後に'to [author initials]'と記載すること。

例：‘This work was supported by the National Institutes of Health [AA123456 to C.S., BB765432 to M.H.]; and the Alcohol & Education Research Council [hfygr667789].’

Crossref 資金提供データ登録

著者は投稿の際に、資金提供源を明示すること。該当しない場合にもその旨を明示する必要がある。この手続きの委細や CHORUS に関する情報に関しては、下記を参照されたい。
https://academic.oup.com/journals/pages/open_access/funder_policies/chorus

Acknowledgements（謝辞）は、本文の後に記載する。ここでは、例えば、試薬提供者への感謝、議論に刺激を与えてくれた研究室メンバーへの感謝、著者リストには含まれていない貢献者の名前の記述、著者の具体的な貢献などについて記載する。

Table（表）は本文で出現する順にアラビア数字で連番をふること。表の脚注は表に含める。本文中に図表の最適な挿入位置を明示すること。

References（文献）

引用した文献は、本文中での引用順に番号を付け、括弧( ) でくくる。例えば、'Ikeda (3) has reported ...'　のように記載すること。2 名以上の著者の場合には筆頭著者名の後に *et al.*とする。例えば、'This observation has been reported by Vormehr *et al.* (1)'.のように記載すること。

文献リストでは、雑誌から引用した論文は下記のように表記すること。

1 Vormehr, M., Diken, M., Boegel, S., Kreiter, S., Türeci, Ö. and Sahin, U. 2016. Mutanome directed cancer immunotherapy. *Curr. Opin. Immunol*. 39:14.

7 名以上の著者の場合、下記のように筆頭から 3 名の著者名の後に *et al.*とする。

2 Hugo, W., Zaretsky, J. M., Sun, L. *et al*. 2016. Genomc and transcriptomic features of response to anti-PD-1 therapy in metastatic melanoma. *Cell* 165:35.

‘in press’（出版予定）の論文や学会要旨を引用する場合、下記のように可能な限り詳細を記載すること。

3 Ikeda, H. 2016. T-cell adoptive immunotherapy using tumor-infiltrating T cells and genetically engineered TCR-T cells. *Int. Immunol*. in press: doi:10.1093/intimm/dxw022

4 Hodi, F. S., Kluger, H., Sznol, M. *et al*. 2016. Durable, long-term survival in previously treated patients with advanced melanoma (MEL) who received nivolumam (NIVO) monotherapy in a phase I trial. In AACR Annual Meeting, April 16–20 2016, New Orleans, LA. Abstract Number CT001.

5 Pinata, S., Lorusso, D., Scambia, G. *et al*. 2014. MITO-11: a randomised multicenter phase II trial testing the addition of pazopanib to weekly paclitaxel in platinum-resistant or refractory advanced ovarian cancer (AOC). *J. Clin. Oncol.* 32(Suppl. 1): Abstract no. 5503.

6 Eggermont, A. M., Chiarion-Sileni, V., Grob, J. J. *et al.* 2014. Ipilimumab versus placebo after complete resection of stage III melanoma: Initial efficacy and safety results from the EORTC 18071 phase III trial. *J. Clin. Oncol.* 32(Issue 18 Suppl., June 20, 2014 ASCO Annual Meeting Abstracts Part 2): Abstract LBA9008, June 11.

書籍の場合は、下記のように記載すること。

7 Swallow, K. 2016. Allergy. In Hall, A., Scott, C. and Buckland, M., eds, *Clinical Immunology*, 2nd edn, p. 63. Oxford University Press, Oxford, UK.

8 Ratcliffe, M. J. H. 2016. *Encyclopedia of Immunobiology*, 1st edn. Academic Press, Cambridge, MA, USA.

ウェブサイトの場合は、下記のように記載すること。

9 Available at: https://clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT01611558

EndNote を用いて原稿を作成する場合、下記のリンクから最新の *International Immunology* レファレンス形式ファイル（Intl Immunology.ens）をダウンロードしておくこと。
http://endnote.com/downloads/style/international-immunology

Illustrations（図）
それぞれの図は本文の内容に即したものでなければならず、本文に出現する順に掲載する。

出版物に掲載される図の電子ファイルは、冊子版での最終的なサイズ（片段サイズの場合幅 86mm、頁全体を使用する場合幅 178mm）にした際、カラーやハーフトーンの図は最低 300dpi、線画は最低 1200dpi をそれぞれが満たしている必要がある。高解像度の出力が可能なソフトを用いて図を作成すること。ファイル名は特殊記号やスペースの使用を避けた簡潔なものが推奨される。Macintosh ユーザーの場合、ファイル名の後に 3 文字の拡張子を入力する必要がある（例：.doc, .rtf, .jpg, .gif, .tif, .ppt, .xls, .pdf, .eps, .mov）。カラー図は RGB ではなく CMYK 形式で提出すること。文字の大きさは図に適したサイズが求められ、最適な

サイズは冊子版で文字の高さが 2mm になる大きさである。図を分割している場合、それぞれの分割の左上に大文字で 1 文字ずつ A, B…とアルファベットをふること。

FACS データについて。各軸のパラメータを、例えば forward scatter, CD4, propidium iodide のように、明記すること。必要があれば図に即したゲートを描き加えること。

図説を作成する際、それぞれの図について可能な限り詳細に説明し、読者が本文を参照する必要がないように配慮すること（本文に必要な情報の繰り返しになってしまう場合など一部の例外を除く）。図中で用いた略称は原則として図説で説明すること。多数の略称の使用が必要な場合は別個に作成した略称のリストに含めること。

図説には図に描かれていることを正確に記し、各部分の測定の数を、例えば"the mean ± SEM from three independent experiments is shown"のように明記する。複数の実験結果から代表的な図を選択し掲載する場合、例えば以下のようにその旨を記載する : "one representative of three independent experiments, each with five subjects, is shown"

オープン・アクセス論文における第三者コンテンツ

オープン・アクセスで出版する場合、論文内にオープン・アクセスでの使用が認められていない第三者のコンテンツがある場合、そのコンテンツの直近に、下記を必ず明記すること。

Title of content

Author, Original publication, year of original publication, by permission of [rights holder]

This image/content is not covered by the terms of the Creative Commons licence of this publication. For permission to reuse, please contact the rights holder.

Colour Charges（カラー印刷費）

2017 年 1 月より、カラーで提出された図はオンラインでは全て無料で出版される。冊子版では、著者がカラーで掲載するか否か選択できる（掲載料金は 1 図当たり**£350/$600/€525**）。カラー印刷を希望する場合、原稿を投稿する時点で料金の支払いに合意しなければならない。請求書は出版の際に発行される。図のキャプションは冊子版とオンライン版の両方に適切な内容でなければならない。白黒の図の場合料金はかからないが、高品質でコントラストが明瞭である必要がある。カラー印刷費は招聘論文には適用されない。

Supplementary Data（補足データ）

論文本文に含めるほど必須ではないが、読者にとって有益である情報はオンライン版だけに、Supplementary Data として論文とリンクさせて掲載することができる。この場合、結論の理解に必須ではないが、論文内容を補完したり、直接関連したりするものであること。

例えば、研究方法の詳細、派生したデータセットやその解析結果、追加画像（カラー）などが含まれる。いずれのデータもそれぞれに適切な電子ファイルフォーマットで提出すること（詳しい方法はこちら）。補足データは査読のため全て本文の原稿と同時に投稿する必要があり、採択後の変更は認められない。投稿の際、補足データは補足データであると明示すること。

Language Editing（英文校閲）

英語が母国語ではない著者の論文の英文校閲は必須ではないが、校閲により編集委員や査読者に論文の内容が正確に伝わる可能性は高まる。ただし、それによって論文が採択されることを保証するものではない。英文校閲サービスについて、詳しくは下記を参照のこと。また類似の英文校閲専門業者もあるのでそちらを利用しても構わない。英文校閲に関わる費用負担は全て著者に帰するものとする。

https://academic.oup.com/journals/pages/authors/language_services

著者について

著者として名前の表記されている人は全員研究に参加し、計画、研究の遂行、分析、データの解釈などに関わっていること。全ての著者は論文作成に関わり、論文の内容を承諾していること。原稿作成のみに深くかかわった場合も著者として記さなければならない（本誌ではいわゆるゴーストライターは認めていない）。著者に数えるほどではないが研究に関わった人は本文の Acknowledgments セクションで名前を挙げること。原稿投稿後に、著者の順番を含む論文の著者情報を変更する場合は著者全員の承諾を得なければならない。著者全員がこの規程を満たしていることを確認するためその旨をカバーレターに明記すること。

Copyright（著作権）

Oxford Journals に採択された原稿が受理された時点で、著者にオンライン出版ライセンスフォームの記入の案内が送られる。

著者のセルフアーカイビング・パブリックアクセスポリシー

本誌におけるこのポリシーの詳細については該当ウェブページを参照。

Conflict of Interest Policy（利益相反のポリシー）

本誌では、論文の投稿時に全ての著者が以下の点について申告することを求める。すなわち、直接、間接にかかわらず何らかの金銭的な利益や利害関係、あるいはその他の状況が存在し、これらが報告された研究成果、あるいは結論やそこから示唆される事項、さらに述べられた意見に対して何らかの偏向を生じさせる疑義を生じうる項目である。このような利害に関連した状況としては、個人、所属部局・機関に対する適切な手続きに基づく企業からあるいはその他の提供者からの研究資金、個人的人間関係、直接の学術的な競争が含まれる。著者が利益相反やそのような関係性を有しているかどうかの判断の基準としては、以下の利益相反を判断するテストに自問自答してみればよい—もし申告せずに論文を

公表した後で、その事実が公になった場合、あなたやあなたの共著者がきまり悪くなるような案件が存在するだろうか？
投稿の際、上記の開示を必ず行う必要があり、corresponding author には共著者全てをこの方針に従わせる責務がある。申告すべき利益相反は、こちらを参照。
原稿が出版された際、利益相反についての情報は論文に掲載される。

重複

投稿するデータは文章と図を含めすべてオリジナルで、他言語であっても一切他所に公表や投稿していないものでなければならない。ただし新規性を示すために関連性の高い先行研究は紹介する必要がある。

画像加工

原則としてデータの改変は認められない。やむを得ず図を加工する場合は、加工は最低限に抑え、行った加工について図説または Methods セクションに記載すること。加工後の図も正確にオリジナルデータを表すものでなければならない。加工は必ず図全体に対して行い、要素を足したり引いたり改変することは許されない。別個の実験のデータを 1 枚の図にまとめることも許されない。

動物福祉とヒト組織を用いた実験

ヒト、ヒト以外の生きている脊椎動物、高等な無脊椎動物が関わる実験を行った場合、カバーレターにその旨を記載すること。ヒト組織を用いた実験を行った場合、Methods セクションに所属機関や国の委員会が定める倫理規程と 1975 年のヘルシンキ宣言（2008 年に改訂）に則って行った旨を記載すること。動物の扱いも同様に所属機関の定めるガイドラインに沿って行われたことを記載する。このような規程がない場合も、その旨記載する。麻酔や鎮痛薬を用いた場合、投与スケジュールと投与量を記載すること。
原稿を準備する際、ARRIVE guidelines を参考にすることが推奨される。

オープン・アクセス

International Immunology の著者は OUP の Oxford Open サービスを利用することで、論文のオープン・アクセスを選択することができる。著者がこれに関わる費用を負担することで、オンライン出版と同時に、論文はウェブサイトより無料でアクセス可能となる。論文採択後に corresponding author は出版許諾に必須の手続きを行うことになるが、その際にオープン・アクセスを選択することができる。オープン・アクセスを選択しない場合は、購読者のみが閲覧可能な通常の方法で出版され、著者の費用負担は発生しない。

オープン・アクセス論文は Creative Commons licences のもとで出版される。
RCUK/Wellcome Trust の資金援助を受けて *International Immunology* で出版する著者が選択できるライセンスは、次のとおりである。
Creative Commons Attribution licence (CC-BY)
その他の著者は以下のライセンスも選択できる。

Creative Commons Non-Commercial licence (CC-BY-NC)

Creative Commons licences の委細に関しては下記を参照されたい。
https://academic.oup.com/journals/pages/open_access

オープン・アクセスに関わる費用は Author Service サイトより支払い可能である。このサイトからクレジットカードやデビットカードによる決済を行うか、メールまたは郵便による請求書の発行を請求することができる。オープン・アクセスにかかる費用は原本で確認すること。

連絡先

投稿に際し何か問題があった場合、編集室まで連絡すること。

メールアドレス： ii.editorialoffice@oup.com
TEL: +81 6 6816 3387
FAX: +81 6 6816 3765